

日本の火山活動概況（2014年1月～2月）

気 象 庁



図 1. 2014年1月～2月に目立った活動があった火山

十和田（ $40^{\circ}27'34''\text{N}$, $140^{\circ}54'36''\text{E}$ （御倉山））

1月27日昼前から夜にかけて地震活動が活発な状況になったが、同日夜には地震回数は減少した。

低周波地震、火山性微動は観測されず、また国土地理院の広域的な地殻変動観測にも変化は認められなかった。

伊豆大島（ $34^{\circ}43'28''\text{N}$, $139^{\circ}23'40''\text{E}$ ）

伊豆大島の東部を主な震源とする火山性地震が、2013年12月21日頃から1月中旬にかけて増加した。

GNSSによる観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いているが、2011年頃から鈍化してきている。その他の観測データに特段の変化は認められなかった。

三宅島（ $34^{\circ}05'37''\text{N}$, $139^{\circ}31'34''\text{E}$ ）

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっている。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は概ね少ない状態で経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

GNSSによる観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。一方、島の南北を挟む長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

2月13日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口南側内壁に位置する主火口及びその周辺で引き続き高温領域が認められたが、前回の観測（2013年9月2日）と比べその状況に特段の変化は認められなかった。

西之島（ $27^{\circ}14'49''\text{N}$, $140^{\circ}52'28''\text{E}$ ）

2013年11月20日海上自衛隊からの連絡及び海上保安庁による観測で、西之島南東海上で新たな陸地の形成と噴火しているのが確認され、同日、火口周辺警報（火口周辺危険）と火山現象に関する海上警報を発表した。海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地が拡大しているのが確認された。

硫黄島（ $24^{\circ}45'02''\text{N}$, $141^{\circ}17'21''\text{E}$ （摺鉢山））

ミリオンダラーホールでは、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震はやや少ない状態で経過した。振幅の小さい火山性微動が時々発生したが、火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。国土地理院の地殻変動観測では、2013年11月頃から沈降の傾向がみられていたが、2014年1月からは停滞に転じている。

海上自衛隊の協力により、1月28日から30日にかけて以下の地域で現地調査を実施した。

『阿蘇台陥没孔の状況』

硫黄島の海上自衛隊からの連絡によると、1月5日と20日に、島西部の阿蘇台陥没孔の湯だまりが消滅していることが確認された。今回の調査でも孔の中に湯だまりが無く、噴気も確認されなかった。阿蘇台陥没孔北側の断面面及び地熱域での地中温度は前回（2013年8月）調査時に比べて大きな変化は認められなかった。

『その他の硫黄島内の状況』

摺鉢山、為八海岸、離岸温泉跡、金剛岩、ミリオンダラーホール、硫黄ヶ丘及び翁浜などその他の地域では、噴気や地熱、地形等の状況は、前回（2013年8月）までの現地調査で確認された熱活動や地形と特段の変化は認められなかった。

福德岡ノ場 (24° 17' 05" N, 141° 28' 52" E)

1月13日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近では変色水域等は認められなかった。

1月29日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる緑色の変色水を確認した。付近の海域には浮遊物は認められなかった。

2月2日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近では変色水域等は認められなかった。

福德岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53' 01" N, 131° 05' 49" E (中岳))

1月13日、27日、29日及び31日に、中岳第一火口でごく小規模な噴火が発生した（阿蘇山で噴火が発生したのは2011年6月9日以来）。13日及び14日に実施した現地調査及び聞き取り調査では、中岳第一火口から南東約7kmの高森町にかけての範囲で降灰が確認された。2月にも16日及び19日に、中岳第一火口でごく小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が最大で火口縁上300mまで上がった。また、12日の現地調査で、中岳第一火口周辺でわずかな火山灰が認められた。10日の夜から11日の朝にかけて、天候不良のため噴煙の状況が不明の期間があり、この間にごく小規模な噴火が発生したと考えられる。

中岳第一火口の湯だまりの量は1割以下で、1月7日に実施した現地調査では、火口底中央付近の湯だまり内で高さ5m程度の土砂噴出を確認した。

今期間に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,300~2,300トンと多い状態が続いていた。

霧島山 (新燃岳) (31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E (新燃岳))

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

火山性地震は概ね少ない状態で経過していたが、2月20日頃から新燃岳火口直下を震源とする地震が一時的にやや増加した。また、新燃岳に隣接する大浪池および

韓国岳付近で地震が時々発生した。

GNSS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられている。

桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は、1月が15回（そのうち爆発的噴火は14回）、2月が33回（そのうち爆発的噴火は25回）であった。噴煙の高さの最高は、2月28日23時49分に発生した爆発的噴火による火口縁上3,000mであった。大きな噴石が4合目まで達する爆発的噴火は、1月に7回、2月に12回発生した。1月22日10時16分の爆発的噴火では、ごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の南東側へ約500m流下した（昭和火口で火砕流が発生したのは2013年10月20日以来）。また、2月12日07時36分の爆発的噴火でも、ごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の南東側へ約400m流下した。1月22日10時16分及び14時37分の爆発的噴火では、桜島島内で、それぞれ最大約1cm、約3cmの小さな噴石（火山れき）を確認した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、1月19日にごく小規模な噴火が発生した。

火山性地震の月回数は少ない状態で経過し、噴火に伴い火山性微動が発生した。今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり800~1,800トンとやや多い状態であった。GNSS連続観測では2013年2月頃から桜島島内の膨張の傾向が見られていたが、7月頃から停滞またはわずかな縮みの傾向がみられる。また、国土地理院の地殻変動観測によると、鹿児島（錦江）湾を挟む一部の基線では、長期的な伸びの傾向が続いていたが、6月頃から停滞気味である。鹿児島地方気象台における降灰量は、月合計で1月が15g/m²、2月が4g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、1月が約20万トン、2月が約30万トンであった。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口で、活発な噴火活動が継続した。爆発的噴火の回数は、1月が23回、2月が7回であった。今期間における噴煙の高さの最高は、火口縁上1,200mであった。火山性地震の月回数はやや多い状態で経過し、火山性微動は時々発生した。遠望カメラでは、噴火に伴い火口付近に飛散する噴石を時々確認し、期間を通して夜間に高

感度カメラで火映を観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、1月1日、6日、23日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が確認された。また、1月1～3日に島内では鳴動や爆発音が確認された。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 橋本祐樹)

日本の火山活動概況 (2014年3月～4月)

気象庁



図1. 2014年3月～4月に目立った活動があった火山

草津白根山 (36° 38' 38" N, 138° 31' 40" E)

3月上旬から湯釜付近の浅い所を震源とする振幅の小さい火山性地震が時々増加する状態が継続している。火山性微動は観測されなかった。湯釜火口等の噴気の状況や地殻変動には特段の変化はみられなかった。

4月22日に陸上自衛隊東部方面航空隊の協力により実施した上空からの観測では、赤外熱映像装置による観測で、湯釜火口内北側斜面、北側噴気地帯、水釜火口北から北東側斜面で、前回(2013年12月5日)の観測と比較して、高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

三宅島 (34° 05' 37" N, 139° 31' 34" E)

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっている。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

3月22日11時頃から15時頃にかけて山頂火口直下の浅い所を震源とする火山性地震が増加し、14時20分頃には三宅村神着で震度2、三宅村役場臨時庁舎で震度1を観測する地震(マグニチュード(M)2.4)が発生したが、その後地震回数は減少した。それ以外の期間については、火山性地震は概ね少ない状態を経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

3月22日11時頃からの火山性地震の増加に対応して、傾斜計でわずかな山体膨張を示す地殻変動が観測されたが、地震回数の減少に伴い次第に収まった。GNSSによる観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。一方、島の南北を挟む長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

3月11日及び24日に実施した現地調査では、赤外熱映像装置による地表面温度分布観測で、山頂火口南側内壁に位置する主火孔及びその周辺で引き続き高温領域が認められたが、陸上自衛隊の協力により実施した前回の観測(2014年2月13日)と比べその状況に特段の変化は認められなかった。全磁力連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られなかった。

西之島 (27° 14' 49" N, 140° 52' 28" E)

2013年11月20日海上自衛隊からの連絡及び海上保安庁による観測で、西之島南東海上で新たな陸地の形成と噴火しているのが確認され、同日、火口周辺警報(火口周辺危険)と火山現象に関する海上警報を発表した。海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継

続し、新たに形成された陸地が拡大しているのが確認された。

硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

ミリオンダラーホールでは、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震が増加し、やや多い状態で経過した。火山性微動が時々発生したが、火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。国土地理院の地殻変動観測では、2013年11月頃から沈降の傾向がみられ、2014年1月からは停滞気味だったが、2月下旬頃から隆起の傾向がみられている。

福德岡ノ場 (24° 17′ 05″N, 141° 28′ 52″E)

4月28日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近で直径約150mの白濁した薄い緑色の変色水が確認された。浮遊物は認められなかった。

福德岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53′ 01″N, 131° 05′ 49″E (中岳))

中岳第一火口では、2月19日以降、噴火の発生はなかった。火山活動は低下し、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、3月12日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から1(平常)に引き下げた。

今期間に実施した現地調査では、中岳第一火口中央部付近で高温の噴気孔を確認し、その噴気孔からは火口内にとどまる程度の灰白色の噴煙を確認した。また、赤外線映像装置による観測では、中岳第一火口中央部付近の噴気孔周辺の熱異常域及び南側火口壁の熱異常域に特段の変化は認められなかった。

今期間に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり700~1,600トンとやや多い状態が続いていた。

霧島山 (新燃岳) (31° 54′ 34″N, 130° 53′ 11″E (新燃岳))

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

新燃岳直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過した。また、新燃岳に隣接する大浪池および韓国岳付近で地震が時々発生した。

GNSS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動

は、2011年12月以降鈍化・停滞していたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられている。

桜島 (31° 34′ 38″N, 130° 39′ 32″E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は、3月が75回(そのうち爆発的噴火は60回)、4月が29回(そのうち爆発的噴火は18回)であった。噴煙の高さの最高は、3月22日5時39分に発生した爆発的噴火による火口縁上2,300mであった。3月9日19時22分の爆発的噴火では、大きな噴石が3合目まで飛散した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

火山性地震の月回数は少ない状態で経過し、噴火に伴い火山性微動が発生した。今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,900~2,900トンと多い状態であった。GNSS連続観測では桜島島内の基線で、2013年7月頃からわずかな縮みの傾向がみられていたが、2014年1月頃から停滞している。また、国土地理院の地殻変動観測によると、鹿児島(錦江)湾を挟む一部の基線では、長期的な伸びの傾向が続いていたが、6月頃から停滞気味である。鹿児島地方気象台における降灰量は、月合計で3月が5g/m²、4月が47g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、3月が約20万トン、4月が約20万トンであった。

諏訪之瀬島 (29° 38′ 18″N, 129° 42′ 50″E (御岳))

御岳火口で、活発な噴火活動が継続した。爆発的噴火の回数は、3月が1回、4月が2回であった。今期間における噴煙の高さの最高は、火口縁上800mであった。火山性地震の月回数はやや多い状態で経過し、火山性微動は時々発生した。期間を通して夜間に高感度カメラで火映を観測した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 橋本祐樹)

○人事公募

【東北大学大学院理学研究科 地球物理学専攻】

1. 職名及び募集人員：助教 1名
2. 所属：東北大学大学院理学研究科 地球物理学専攻 固体地球物理学講座

3. 研究教育内容等：地震学・火山物理学分野の研究を推進する。学部における地球物理学・物理学に関する教育、ならびに大学院における教育と研究指導を担当する。
 4. 採用予定時期：2014年6月1日以降の早い時期
 5. 応募資格：採用時に博士の学位を有すること
 6. 提出書類：
 - (1) 履歴書（市販用紙可）
 - (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む）
 - (3) 主要論文の別刷り（コピー可）1-3編程度
 - (4) 研究業績の概要（2000字程度）
 - (5) 研究と教育の計画・抱負（2000字程度）
 - (6) 応募者に関して意見を聞ける方2名の氏名とその連絡先、ならびに応募者との関係
 7. 公募締切：2014年3月20日（木）必着
 8. 問い合わせ先：西村太志 nishi@zisin.gp.tohoku.ac.jp
詳しくは
<http://www.gp.tohoku.ac.jp/recruit/pdf/koubo20140130.pdf>
をご覧ください。
- （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月3日送信しました）

【独立行政法人日本原子力研究開発機構】

日本原子力研究開発機構が進めている、地層処分技術に関する研究開発において、任期付研究員（3テーマ、各1名）を募集いたします。

応募の締切は2月末日です。

研究テーマ、内容と掲載先 URL は以下のとおりです。

[深地層における地下水流動特性評価に関する研究]

瑞浪超深地層研究所における地下水流動特性評価のための水理地質構造モデルの構築・地下水流動解析技術に関わる研究開発を実施する。

<http://www.jaea.go.jp/saiyou/employment/employment386.html>

[深地層における工学技術に関する研究]

瑞浪超深地層研究所における研究坑道掘削時に適用した設計技術、掘削技術、施工対策技術および安全を確保する技術の研究開発を実施する。

<http://www.jaea.go.jp/saiyou/employment/employment387.html>

[放射年代測定法に関する基礎研究]

第四紀の地質イベントの履歴を精度良く復元するため、極微量の岩石鋳物試料等の放射年代測定法の開発・高度化を目指す。

<http://www.jaea.go.jp/saiyou/employment/employment388.html>

html

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月4日送信しました）

【東京工業大学火山流体研究センター】

1. 募集職種：研究員・1名
2. 資格等条件：平成26年4月1日現在35歳未満で、かつ着任時に博士の学位を有すること。
3. 業務内容：当センターの関連する研究分野における研究を行う。
詳細は以下を参照。 <http://www.ksvo.titech.ac.jp/>
4. 勤務予定地：
火山流体研究センター草津白根火山観測所（群馬県吾妻郡草津町草津 641-36）
あるいは火山流体研究センター（東京都目黒区大岡山 2-12-1）
5. 応募書類 以下の通り。応募書類は返却しない。
 - (1) 履歴書（写真貼付）：学歴（高校卒業以降）、職歴、資格、賞罰
 - (2) 業績目録：査読論文、査読なし論文、学会発表に分類すること。
 - (3) これまでの研究の概要および今後の研究の抱負（各A4で1枚）
 - (4) 主要論文別刷：5編以内
6. 応募方法：封筒に「火山流体研究センター研究員応募書類在中」と朱書きし、提出先宛に簡易書留で郵送
7. 応募締切：平成26年3月17日（月）必着
8. 選考方法：書類選考による。面接をすることもある。
9. 内定通知：3月24日（月）までに通知
10. 雇用期間：平成26年4月1日以降なるべく早い時期～平成27年3月31日
※更新の可能性有り（ただし、最長で3年間）
11. 給与：月額約30万円
12. 勤務時間等
週5日・週10時間の勤務、休日（土日、祝日、年末年始（12/29～1/3））
有給休暇及びその他の休暇制度あり
13. 社会保険等：労働者災害補償保険
14. 応募書類提出先（簡易書留で郵送すること）：
〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学火山流体研究センター 小川康雄
15. 問い合わせ先：火山流体研究センター 小川康雄
oga@ksvo.titech.ac.jp
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月24日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：助教 1 名
2. 所属：採用後に決定
3. 研究分野：観測地震学分野

地震研究所では、地震学に関する魅力的な研究計画を立案し、その研究計画を推進することを重要な課題と位置づけている。本公募では、既存の基盤観測網で得られるデータとは質的・量的に異なる地震学的データを得る観測研究に従事することを通じて、新たな地震学の展望を切り拓き、将来的に魅力ある研究計画を立案し、さらに、その実現を先頭に立って進めていく能力と意欲のある若手研究者を募集する。この公募では、これまでの研究実績にかかわらず、上に述べたような新たな観測地震学の展開に対するビジョンを持っている人材が期待される。また、採用後は本学教授、准教授と協力して大学院教育にも携わることが期待される。

4. 採用予定時期：採用決定後のできるだけ早い時期
5. 応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）
6. 任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により、満 55 歳を超える教員については、次年度の初めに教員の所属する組織（分野）の職に 5 年以内の任期を定める。再任は本研究所教授会の承認を得た場合に 1 回限り可とする（ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない）。また、本公募により雇用された助教は、採用後 10 年を目処に教授会による総括的評価が行われる。なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。
7. 提出書類：【提出書類は返却しません】
 - (1) 履歴書（市販用紙可）
 - (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。）
 - (3) 主要論文の別刷り 3 編程度（コピー可）
 - (4) 研究業績の概要（2000 字程度）
 - (5) 今後の研究計画（2000 字程度）この項目では、上に述べた「新たな観測地震学の展開に対するビジョン」について言及すること。
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方（2 名）の氏名と連絡先と E-mail アドレス
8. 応募締切：平成 26 年 9 月 24 日（水）午後 4 時必着
9. 問い合わせ先：東京大学地震研究所 火山噴火予知研究センター 武尾 実

TEL：(03) 5841-5707 E-mail：takeo@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先：

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所 庶務チーム（人事）宛

封書を用い、表に「観測地震学分野 助教 応募書類在中」と朱書きし、書留郵便で送付してください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 1 日送信しました）

【京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設】

職 種：研究員（時間雇用教職員）

募集人員：1 名

勤務場所：附属地球熱学研究施設（大分県別府市）又は火山研究センター（熊本県阿蘇郡）

応募資格：着任の時点で、博士学位を有すること。

研究分野および職務内容：

研究分野：現在、本施設に所属している研究者やその研究分野等の詳細については、HP 等（<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp>）を参照のこと。なお、応募にあたっては、本施設の教員と必ず事前に連絡を取り、研究計画について相談すること。適任者が見出せない場合は、施設長（kagiyama*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp）と相談すること。（*を@に変えてください）

職務内容：本施設の研究者と協力して、施設が行っている研究分野あるいは、その関連分野における研究を進展させると共に、地球熱学の新しい領域を開拓する。

着任時期：平成 26 年 6 月 16 日以降できるだけ早い時期

任 期：平成 26 年 6 月 16 日～平成 27 年 3 月 31 日まで

※以後更新する場合あり、（最大通算 3 年まで）

勤務形態：週 19 時間勤務

※土・日曜、祝日、年末年始、創立記念日および夏季休業日を除く

※本学基準に基づき年次休暇を付与

※必要に応じて超過勤務を命じる場合が有ります。

給与・手当等：時間給 3,900 円本学支給基準に基づき、超過勤務手当を支給（その他の手当、賞与、退職手当は支給しません）

社会保険：労災保険に加入

応募方法および必要書類：

1. 履歴書 氏名、生年月日、住所、連絡先（電話および E-Mail も記載）学歴（高校入学以降の入学年月日、卒業年月日）、職歴、資格、賞罰、学会賞など
2. 業績目録 査読論文、査読なし論文、学会発

表など
(博士号(題目, 取得大学, 時期も記載))

3. 研究の概要および今後の研究の抱負(各A4, 1枚程度)

4. 主要論文3編以内

応募方法: 上記書類をPDFファイル(1, 2, 3は同一ファイル)で下記応募先に送付すること.

E-Mail: kagiyama*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp (*を@に変えてください)

応募締め切り: 平成26年5月7日(水曜日)必着

問合せ先:

〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 5280
京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター 鍵山恒臣
電話 0967-67-0022 (阿蘇) 075-753-3938 (京都分室)
E-Mail: kagiyama*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp (*を@に変えてください)

その他: 提出していただいた書類は, 採用審査にのみ使用します。正当な理由なく第三者への開示, 譲渡および貸与することは一切ありません。なお, 応募書類はお返ししませんので, あらかじめご了承ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月1日送信しました)

【明治大学研究・知財戦略機構】

1. 公募人員: 特任講師1名
2. 勤務形態: 常勤(任期あり): 任用日から2017年3月31日まで)
3. 任用予定年月日: 2014年8月1日(任用期間: 2年8カ月間)
4. 研究分野: 理工系 数物系科学 地球惑星科学 地質学
5. 研究分野の内容: 地質学に基礎をおき, 野外調査に基づいて火山諸現象に関する研究を岩体・岩石レベルで推進できる人, 特に黒曜石(黒曜岩)を理化学分析の手法を用いて研究できる人。黒曜石研究センターは考古学研究を中心とした施設でもあるので, 考古学的黒曜石研究にも関心のある人。また, センターが研究協定を締結しているロシア極東地質学研究所, ウクライナ国立考古学研究所, イタリア・サルディニア黒曜石博物館などを通して, ロシア極東, カルパティア山地, 地中海の黒曜石産地の調査と研究交流にも意欲のある人。
6. 職務内容: 上記の研究活動, 黒曜石をめぐる国際研究ネットワーク構築作業, 大学院教育への協力。

7. 勤務地: 明治大学研究・知財戦略機構 黒曜石研究センター

(〒386-0601 長野県小県郡長和町大門 3076-8) <http://www.meiji.ac.jp/cols/>

8. 応募資格

以下の条件を全て満たす者

- (1) 博士の学位を有する者。
- (2) 査読付き学術論文3本以上の業績がある者
- (3) 研究分野の内容の遂行に十分な能力と熱意のある者。

9. 待遇

学校法人明治大学特任教員の給与等に関する規程等により処遇

10. 提出書類

- (1) 履歴書(指定書式使用の上, 写真貼付※画像データの貼付不可)……1通
- (2) 業績書(指定書式使用)……1通
- (3) 主要業績の別刷り(3篇: 日本語あるいは英語で公表されたもの, コピー可)
- (4) 着任後の研究に関する抱負やアピールすべきこと(1200字程度)……A4×1枚(書式自由)
- (5) 推薦状があれば添付しても良い(書式自由)

※なお, 最終選考時(面談時)に健康診断書(所定書式)の提出が必要となります。

※「履歴書」「業績書」については, 所定の書式がありますので, また, 「書類記入の手引き」にしたがい, 正確に記入してください。

※応募書式は, 研究推進部研究知財事務室(osri@mics.meiji.ac.jp)までメールでご請求ください。

11. 応募締切: 2014年5月19日(月)消印有効

12. 応募書類の提出先

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

明治大学研究推進部研究知財事務室

*なお, 封筒に朱書きで「明治大学研究・知財戦略機構特任教員応募書類在中」と明記し, 簡易書留で郵送してください。

13. 選考方法

- (1) 第1次選考 書類選考
 - (2) 第2次選考 面接(書類選考通過者に限り実施)
- ※原則として, 面接のための旅費等は支給しません。

14. 問い合わせ先

[募集全般] 明治大学研究推進部研究知財事務室

Fax: 03-3296-4283 E-mail: osri@mics.meiji.ac.jp

(電話での問い合わせには応じかねます)

15. その他

- (1) 提出書類は, 原則として返却いたしませんので,

ご了承ください。

※なお、個人情報につきましては責任を持って処理いたします。

- (2) 第2次選考の面接は、書類選考の通過者に限り実施いたします。なお、6月上旬を予定しております。
- (3) 明治大学黒耀石研究センターの立地に鑑み、自動車通勤ができることが望ましい。なお、明治大学による自動車の貸与はありません。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月2日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 募集職種：技術職員2名
2. 勤務場所：東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所
3. 職務内容：本件で求める技術職員の職務内容は下記の通りです。

地震や地殻変動などの地球物理現象を観測するため、野外で観測機器の設置、調整などを行うことが主たる業務です。作業場所には、火山や海域（船上）が含まれます。さらに、様々な機器を用いた観測だけでなく、取得した観測データの基本的な処理・解析、古記録を含む地震記録の整理およびアーカイブの構築と公開、観測機器等の管理、既存の観測施設の点検・保守も業務に含まれます。地震や火山噴火現象に興味を持ち、その解明に熱意をもつ人、観測・データ処理・データ解析等の技術の向上に意欲と能力を持つ人を望みます。野外での観測・調査活動、計測や計測機器開発、電子工作やソフトウェア・プログラミングなど、地球物理観測業務に応用できる経験や技術を有する者は、その専門を問いません。

4. 応募資格：4年制大学理工系学部卒業以上で、2年程度以上、上記の地球物理観測業務に応用できる職務経験を有すること。ただし、大学院等における研究歴は資格要件の職務経験に含まれます。平成27年3月修士課程修了見込みの方の応募も歓迎します。

※ただし、次の者は応募できません。

- 1) 成年被後見人及び被保佐人（準禁治産者を含む）
- 2) 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終えるまでの者、又はその刑の執行猶予の期間中の者、その他その執行を受けることがなくなるまでの者
- 3) 懲戒解雇又はこれに相当する処分を受けたことのある者で、その処分の日から2年を経過していない者

- 4) 日本国内における活動に制限のない在留資格を有しない者

5. 応募期限：平成26年5月14日（水）正午必着
6. 採用予定時期：平成27年4月1日（早期の就職を希望する者は今年度中の採用可）

7. 応募書類：

- 1) 履歴書（東京大学統一履歴書フォーマット）
下記 URL よりダウンロードしてください。
URL：http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html
東京大学 HP > 研究者・職員公募 > 東京大学統一履歴書フォーマット

- 2) 小論文（書式自由）
本公募に応募した理由2,000字以内

- 3) 職務経歴書（書式自由）
経歴ごとに企業や大学院等の職務・研究内容を具体的に記述

*連絡に使用しますので、連絡用メールアドレスを必ず記入してください。

8. 選考方法等：

小論文及び職務経歴書等にもとづく書類選考、及び面接選考により決定します。

第一次面接試験日時等は書類選考後、合格者のみへ個別に連絡しますが、下記の日程を予定しています。

- 1) 第一次面接試験：平成26年5月24日（土）
- 2) 第二次面接試験：平成26年5月28日（水）

※適任者がいない場合、決定を保留します。

9. 勤務条件等

下記 URL を参照してください。

URL：http://www.u-tokyo.ac.jp/recruit/info/kinmu_j.html

東京大学 HP > 研究者・職員公募 > 東京大学職員採用試験・国立大学法人等職員採用試験 > 働く環境 > 勤務条件・福利厚生

10. 応募書類提出先及び問合せ先

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所庶務チーム（人事）

電話：03-5841-5668 E-mail：jinji@eri.u-tokyo.ac.jp

応募書類は封筒に【技術職員応募】と朱書き、書類提出先まで送付して下さい。

原則として、応募書類は返却いたしませんので、予めご了承ください。

11. 地震研究所の説明

URL：http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/laboratory/history.html

12. 地震研究所技術部の職員からメッセージ

URL：http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/recruit/message/syoukai.

html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月9日送信しました)

【千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻地球科学コース】

1. 職名・人数：助教（テニュアトラック制による任期5年）1名
本公募は「国立大学法人千葉大学のテニュアトラック制に関する規程」に基づき行われます。
5年の任期満了時までにテニュア付与にかかる審査が行われ、可とされた教員は定年制適用教員（原則として講師または准教授）となります。
2. 公募分野：地球内部科学領域 岩石学・鉱物学教育研究分野
岩石学の視点から野外調査、各種分析・実験等を通して地球・惑星の表層～内部で過去から現在まで営まれてきた物質の進化や循環などに関する研究を進めている方で、地球科学コースの教員と連携して教育研究を積極的に行える方。
3. 着任時期：決定後出来るだけ早い時期
4. 担当授業科目：岩石学・鉱物学関連の学部の授業科目と野外実習・室内実験、地球科学演習、卒業研究指導、および大学院博士前期課程ならびに博士後期課程の授業科目と研究指導。
助教任期中は、全学で運営する普遍教育科目（いわゆる一般教養科目）授業担当と学内の管理・運営に関する業務は免除します。
5. 応募資格：博士の学位取得後10年以内の方、または着任時までに博士の学位を取得見込みの方。
6. 給与：千葉大学の規則に準じて経歴と業績を考慮して決定します。
7. 応募書類：(1) 履歴書
(2) 業績リスト（査読論文とそれ以外を区分）
(3) 主要論文5編の別刷あるいはコピー
(4) 推薦状または所見を伺える方数名の氏名、連絡先等
(5) これまでの教育・研究実績と千葉大学赴任後の教育・研究計画・抱負等（A4用紙2-3枚程度）
8. 応募の締切：2014年6月30日（月曜日）必着
9. 応募書類の送付先 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻地球科学コース
応募書類は必ず書留郵便で、封筒には「助教公募書類」と朱書してください。

応募に関する問い合わせ先 津久井雅志

E-mail：tsukui@faculty.chiba-u.jp

電話：043-290-2837

10. 個人情報について：教員公募に関連して提供された個人情報は、選考の目的に限って利用します。選考終了後返却を希望される方はその旨をお伝えください。
11. 選考について：選考過程で、応募者にセミナーをしていただく予定です。セミナーにかかる旅費、滞在費は自己負担とします。結果については応募者全員に個別にお知らせします。
教育・研究業績が同等である場合、女性、外国人、他機関勤務経験者を積極的に採用します。
12. 地球科学コース教員構成（2014年4月現在）
（地球科学コースのホームページ URL <http://www-es.s.chiba-u.ac.jp/>）
◆地球内部科学教育研究領域（本公募領域）
教授 井上厚行、金川久一、佐藤利典、津久井雅志、服部克巳、廣井美邦
准教授 中西正男、吉田修二
助教 津村紀子、古川登
◆地球表層科学教育研究領域
教授 伊藤 慎、小竹信宏、竹内 望、宮内崇裕
准教授 金田平太郎、亀尾浩司、戸丸 仁
◆環境リモートセンシング教育研究領域*
教授 近藤昭彦*、建石隆太郎*
准教授 樋口篤志*、本郷千春*
特任准教授 入江仁士**
環境リモートセンシング研究センター専任教員の*：兼務、**：兼任
その他の兼務教員
教授 濱田浩美（教育学部）
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月22日送信しました）

○その他の公募

【2014年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「進歩賞」候補者の募集】

1. 三宅賞

対 象：地球化学に顕著な業績を挙げた研究者
表彰内容：賞状、副賞として賞牌および賞金30万円、毎年1名

2. 進歩賞

対 象：1974年4月2日以降に生まれた方で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者

表彰内容：賞状および賞金 10 万円，毎年 1～2 名

3. 応募方法：地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に，略歴・推薦理由・研究業績などを記入し，主な論文 10 編程度（三宅賞），2 編程度（進歩賞）を添えて，下記のあて先へ送付して下さい。応募書類等は三宅賞及び進歩賞選考のためにのみ用いられます。

4. 締切日：2014 年 8 月 31 日（必着）

地球化学研究協会ホームページ：

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~e881147/Geochem/index.html>

応募書類送付先：

〒 100-8212 東京都千代田区丸の内 1-4-5

三菱 UFJ 信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ（公益信託）地球化学研究基金 伊藤幸雄

問合せ：電子メールで下記アドレスへお願いします。

E-mail：citaro1939@yahoo.co.jp

または：t-sagi@m3.gyao.ne.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 2 月 12 日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 公募事項（公募要領を参照）

（1）共同研究

2. 申請資格：国立大学法人，公，私立大学及び国，公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。

3. 申請方法：共同利用 HP（<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/>）にある「所定の様式」に必要な事項を記載の上，Web 申請してください。

4. 研究期間：研究期間は，平成 26 年採択日から平成 27 年 3 月までとする。

5. 審査の方針：本研究所共同利用委員会では提出された申請書を審査し採否を決定します。研究計画の内容が各種共同利用の趣旨に沿っていることが重要です。

6. 申請期限：平成 26 年 3 月 20 日（木）【厳守】

7. 承諾書の提出：上記締め切り後 2 週間以内に所属機関長等の承諾書（様式 11）を下記住所まで郵送願います。（異動等があった場合は，新しい所属機関長の承諾書を速やかに再提出してください。）

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所研究支援チーム（共同利用担当）

8. 採否の決定：共同利用の採否は，本研究所共同利用委員会が決定します。採否の決定は，平成 26 年 6 月末までに行われ，審査結果を課題代表者及び研究代表者あて通知する予定です。

9. 所要経費：共同利用に必要な経費及び旅費は，予算の範囲内において地震研究所が支出します。

10. 報告書：全ての共同利用者※は，研究期間終了後 30 日以内に共同利用実施報告書を Web システムにて提出していただきます。

（※特定共同研究の場合は「課題代表者」，地震・火山噴火の解明と予測に関する公募研究の場合は「研究代表者」）

11. 謝辞等の記載：本研究所の共同利用で行われた研究に関する論文を発表する場合は，謝辞に地震研究所共同利用を利用した旨の文章を入れ，その別刷を提出していただきます。

12. 宿泊施設：本研究所には宿泊施設がありませんので，各自用意してください。

13. 注意事項：

（1）施設等の利用にあたっては，本研究所の規程，その他関係法令を遵守するとともに，管理・安全のために発する所長の指示に従っていただきます。

（2）予算の執行，研究の実施，設備の利用については，担当教員と十分に連絡を取り，かつ，関係する教員の指示に従ってください。

（3）本学以外の共同利用者が研究を遂行する際に受けた損失，損害に関しては，原則として各所属機関で対応するものとし，本学は一切の責任を負いません。また学生が共同研究に参画される場合は，（財）日本国際教員支援協会の損害保険「学生教育研究災害障害保険（学災教）」等に加入してください。（証明書等の提出は不要）

（4）本共同利用によって知的財産を創出した場合は，出願等を行う前に対応教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて，所属機関の知財担当部署への連絡もお願いいたします。権利の持ち分，出願手続き等については協議の上，決定いたします。

（5）この他，公募に関するお問い合わせは研究支援チーム（共同利用担当）へお願いします。

【問い合わせ先】

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム（共同利用担当）

電話：03-5841-5710，1769

FAX：03-5689-4467

E-mail：k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 2 月 13 日送信しました）

【内閣が実施する大型研究プロジェクトのプロジェクト

ト・マネージャーの公募について】

3月7日より政府の総合科学技術会議で検討を進めてきた革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）のプログラム・マネージャーの公募が開始されました。総合科学技術会議の司令塔機能強化の一環として創設が決定されている ImPACT は、実現すれば産業や社会のあり方に大きな変革をもたらす革新的な科学技術イノベーションの創出を目指し、プログラム・マネージャーに大胆な権限を付与し、ハイリスク・ハイインパクトな挑戦的研究開発を推進する、新たな仕組みです。このたび、ImPACT のプログラム・マネージャーの公募を行います。

○選考・書類提出のスケジュール

公募開始：3月7日

概要書類締切：3月31日正午（必着）

詳細書類締切：4月24日正午（必着）

面接実施予定：5月下旬頃（書類審査合格者のみ）

選考結果の発表：6月～

本プログラムについては、大きく5つのテーマが掲げられており、そのうちのひとつとして火山災害に関係する下記が挙げられています。

○人知を超える自然災害やハザードの影響を制御し、被害を最小化（国民一人一人が実感するレジリエンスを実現）

詳細は下記のホームページをご覧ください。

総合科学技術会議 HP（プログラム・マネージャー公募）

<http://www8.cao.go.jp/cstp/sentan/kakushintekikenkyu/pmkoubo.html>

*革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）について

<http://www8.cao.go.jp/cstp/sentan/about-kakushin.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月11日送信しました）

【京都大学防災研究所 地域防災実践型共同研究の募集】

地域防災実践型共同研究（特定）

・研究期間2年

・各年度500万円以内、総額1,000万円以内

申請の締切：平成26年3月31日（月）

詳細の公募要領につきましては防災研究所 HP をご参照ください。

http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/contents/leftmenu_kyodo_new20140117.html

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月19日送信しました）

【地層処分の技術的信頼性に関する意見募集】

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原

子力小委員会 地層処分技術 WG では、科学的知見に基づく地層処分における地質環境の長期安定性について、専門家からの意見を募集しております。募集期間は平成26年3月25日から平成26年4月24日です。詳細は下記 HP を御覧ください。

<http://www.enecho.meti.go.jp/rw/shobungijyutsu-iken.htm>
問い合わせ先

資源エネルギー庁放射性廃棄物等対策室

地層処分の技術的信頼性に関する意見募集担当

電話：03-3501-1511（内線4781）

E-mail：rwt-opinion@meti.go.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月28日送信しました）

【平成26年度拠点間連携共同研究の公募について】

1. 公募事項（公募要領を参照）

（1）拠点間連携共同研究

2. 申請資格：国立大学法人、公、私立大学及び国、公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。

3. 申請方法：連携共同研究応募専用 HP（<https://www.pasreg.jp/reg/top/dprieri/author>）より「所定の様式」に必要事項を記載のうえ Web 申請してください。「所定の様式」は東京大学地震研究所の共同利用の HP（<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/>）、もしくは京都大学 防災研究所の共同研究の HP（http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/index_topics.html）にあります。

4. 研究期間：研究期間は、平成26年採択日から平成27年3月までとする。

但し、課題募集型研究においては、平成27年度の公募において再度申請、採択を受けた場合は平成27年度末まで継続が可能です。

5. 審査と採否：東京大学地震研究所（以下、地震研）と京都大学防災研究所（以下、防災研）が共同で設置する拠点間連携共同研究委員会において一次審査がなされ、最終的には地震研の共同利用委員会と防災研の共同利用・共同研究拠点委員会が採否を決定します。

採否の決定は、平成26年6月末までに行われ、結果を申請者に通知します。

研究計画の内容が共同研究の公募の趣旨に沿っていることが重要です。

6. 申請期限：平成26年5月23日（金）【厳守】

7. 承諾書の提出：上記締め切り後2週間以内に所属機関長等の承諾書（様式 拠点2）を下記住所まで郵送願います。

（異動等があった場合は、新しい所属機関長の承諾書

を速やかに再提出してください。)

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム (共同利用担当)

8. 所要経費：研究に必要な経費(備品は除く)及び旅費は、予算の範囲内において防災研において経理処理します。
9. 報告書：本共同研究の申請代表者は、研究期間終了後30日以内に共同研究実施報告書(様式 拠点3)をWebシステムにて提出して下さい。
10. 謝辞等の記載：この拠点間連携研究の共同研究で行われた研究に関する論文を發表する場合は、謝辞に地震研と防災研の拠点間連携共同研究による旨の文章を入れてください。
11. 宿泊施設：地震研および防災研には宿泊施設がありませんので、各自用意してください。
12. 注意事項：
 - (1) 施設等の利用にあたっては、地震研および防災研の規程、その他関係法令を遵守するとともに、管理・安全のために発する両所長の指示に従っていただきます。
 - (2) 予算の執行、研究の実施、設備の利用については、両研究所の担当教員と十分に連絡を取り、かつ、関係する教員の指示に従ってください。
 - (3) 東京大学および京都大学以外の共同利用者が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機関で対応するものとし、東京大学および京都大学は一切の責任を負いません。
また学生が共同研究に参画される場合は、(財)日本国際教員支援協会の損害保険「学生教育研究災害傷害保険(学災教)」等に加入してください。(証明書等の提出は不要)
 - (4) 本共同研究によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に両研究所の担当教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて、所属機関の知財担当部署への連絡もお願いいたします。権利の持ち分、出願手続き等については協議の上、決定いたします。
 - (5) この他、公募に関するお問い合わせは地震研・研究支援チーム(共同利用担当)もしくは、防災研・研究協力課共同利用担当へお願いします。

【問い合わせ先】

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム (共同利用担当)

電話：03-5841-5710、1769

FAX：03-5689-4467

E-mail：k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学宇治地区事務部研究協力課共同利用担当

電話：0774-38-3350

FAX：0774-38-3369

E-mail：kyodo2014@dpri.kyoto-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月9日送信しました)

【日本学術振興会育志賞に関する募集】

日本火山学会会員各位

日本火山学会では「日本学術振興会 育志賞」に学会から推薦する大学院生を募集いたします。育志賞は博士後期課程大学院生を対象とした賞で、受賞者には賞状・賞牌のほか副賞として学術奨励金110万円が贈られます。また、希望により翌年度から特別研究員等に採用されます。候補者の条件や賞の詳しい内容につきましては下記URLをぜひご覧ください。

博士課程大学院生の皆様におかれましては、奮ってお申込みください。

とくに女性大学院生の方は応募を積極的にご検討ください。

【応募要領】

・次の書類を作成して学会事務局まで電子メールでお送りください。

候補者情報(日本学術振興会育志賞推薦書「様式2」のうち、1ページ目相当の内容)

研究の概要(育志賞推薦書様式の「様式4」)

・申し込みのあった方の中から、推薦する者(1名)を理事会で決定します。

・募集締め切り 2014年5月20日(火)

・問い合わせ・書類送り先：日本火山学会事務局(kazan@khaki.plala.or.jp)

・なお、所属大学から推薦されることになっている場合は、そのことも付記してください。

* 日本学術振興会育志賞 URL

<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月13日送信しました)

【国際測地学地球物理学連合(IUGG)若手賞の推薦募集】

日本火山学会会員各位

IUGGでは優れた地球惑星科学研究および国際研究協力を行った若手を表彰するための賞(Early Career Scientist Award)が新たに創設されました。4年に1度、全世界で10名以下に授与されます。日本火山学会員にも相

応しい候補者があれば奮ってご応募ください。

【受賞候補者の資格】

- (1) 40歳以下（平成26年6月22日現在）
- (2) PhDもしくはそれと同等の学位を持つ者
- (3) 地球惑星科学の国際協力を積極的に推進している者

【応募方法】

- (1) 3名の科学者の推薦状
 - ・候補者と共同研究を行った経験、または刊行物・引用成果を通じて候補者を良く知っている科学者からの推薦状をもらうこと。
 - ・候補者の所属する機関以外の科学者の推薦状を含むこと。
 - (2) 候補者の履歴書
 - ・A4、2頁以内
 - ・IUGGの対象とする研究分野における貢献および国際研究協力に対する貢献に重点を置いて記載すること。
 - (3) 主要業績一覧
 - ・A4、1頁以内
- (注) 全て英語で記載のこと

【その他】

受賞者は来年のIUGG総会で表彰されるとともに、出席して招待講演を行っていただきます。旅費はIUGGから支給されます。

【締切】 5月28日（水）

【問い合わせ・書類送り先】

日本学術会議 IUGG 分科会 IAVCEI 小委員会委員長
中田節也 (nakada@eri.u-tokyo.ac.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月14日送信しました)

○講演申込等のご案内

【AOGS : Volcanic processes through petrology 講演申込】

AOGS 札幌大会 (7/28-8/1) では以下のセッションがあります。

興味ある方は是非申込下さい。講演申し込みは2月11日メ切です。

<http://www.asiaoceania.org/aogs2014/public.asp?page=home.htm>

[SE 12]

“Insights into volcanic processes through petrological studies and how they can be used to better understand monitoring data”

Conveners : Fidel Costa (fcosta@ntu.edu.sg) and Setsuya Nakada (nakada@eri.u-tokyo.ac.jp) Session description :

Long-term records of monitoring data including geo-physical and geochemical sets are crucial for anticipating and forecasting volcanic eruptions. However, in many unrest episodes the interpretation of monitoring data in terms of processes is ambiguous, as different processes can cause the same or similar signals. Studying the eruptive products with modern petrological and geochemical tools has the capacity to provide conceptual models and data that can make a bridge towards process-based interpretations of unrest monitoring data. In this session we invite case studies of eruptions that determine the state of the magma and processes that occurred prior to eruption (magma mixing, crystallization, overturn, magma fragmentation, magma storage depth, time scales of the processes) and try to link the petrological observations with the monitoring record of the same event.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月3日送信しました)

【AOGS 2014 : SE22 Monitoring active volcanoes with remote sensing and ground-based observations】

火山学会の皆様

7月末に札幌で開催されるAOGSにおきまして、下のよう火山測地に関するセッションを開催いたします。関心のある方は投稿よろしくお願いたします。投稿締め切りは2月11日です。

SE22 : Monitoring active volcanoes with remote sensing and ground-based observations

Monitoring active volcanoes with ground-based instruments is important but contains high risks especially during their erupting periods. Moreover, the topography of volcanic terrain often hampers the ground-based observation. To reduce the risk from ground-based observations and to take advantages of high temporal resolution of ground-based observations and high spatial resolution of remote sensing, a combination of satellite and ground-based observations at active volcanoes is important. With this background, the combination of these two approaches has been increasingly popular over the last decade and has become a fundamental approach to monitor active volcanoes. In this session, we propose to gather contributions that would allow discussions about the role of both satellite and ground-based techniques for broad applications related to fundamental knowledge and applied science to volcanic processes, hazard, and risks.

Conveners :

Yosuke Aoki (Univ. Tokyo)
Philippe Jousset (GFZ Potsdam)
Asep Saepuloh (ITB)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月4日送信しました)

【AOGS2014 札幌 セッション案内】

火山学会の皆様

AOGS 於札幌 (7/28-8/1) で以下の「固体地球科学に関わる流体力学」のセッションを開催いたします。研究方法は問いません。

普段、あまり議論する機会のない方々の間で、幅広くいろいろな流れについて意見交換する場を作りたいと考えています。

是非、ご気軽に投稿ください。アブストラクトメ切りは、2月11日(火)です。

<http://www.asiaoceania.org/aogs2014/public.asp?page=home.htm>

SE02 Fluid Dynamics in the Solid Earth Sciences
(Joint Session with JpGU S-CG10)

Conveners : Ikuro Sumita (Kanazawa University, Japan)
Benoit Taisne (Nanyang Technological University, Singapore) Eisuke Fujita (NIED, Japan)

Fluid dynamical processes are ubiquitous and are key elementary processes which occur in the Earth's interior and at the Earth's surface. Many of these processes involve challenging complexities such as multiphase (solid-liquid-gas), phase change, non-Newtonian rheology, fracturing, granular flow, turbulence etc.

It is not uncommon that similar fluid dynamical process occur in vastly different geological settings, for example in the magma chamber and in the Earth's core.

Therefore we feel that by fostering discussion among researchers working on the related phenomena, but not necessarily on the same geological problem, an in depth fluid dynamical understanding can be attained. Here we solicit broad range of fluid dynamical research motivated to understand dynamical processes in the Earth's interior and at the Earth's surface, using analytical, numerical, experimental approaches, or any combinations of these. We hope that the session provides an interdisciplinary ground to enhance discussion, provide physical insights and inspire new solutions to individual problems.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月4日送信しました)

【地震と自然災害のための測地学国際シンポジウムのご案内】

日本火山学会員の皆様

International Symposium on Geodesy for Earthquake and Natural Hazards

GENAH (ジーナ) 2014 開催および講演申込期限延長のお知らせ

表記国際シンポジウムが今年7月末に開催されます。特に

Session 4 Interaction of Earthquakes and Volcanoes

Session 6 Geodetic Techniques in Volcanological Research

は、火山学に密接なセッションになりますので、皆様の積極的な発表お申し込みをお待ちしています。

=====

「地震と自然災害のための測地学国際シンポジウム (GENAH2014)」

開催年月日：2014年7月22日(火)～25日(金),
26日(土) 巡検

場所：ホテル大観荘 (宮城県松島町)

主催：GENAH2014 実行委員会,
国際測地学会第3コミッション

詳細：GNSSなどに代表される測地技術は自然災害軽減のための基礎的情報を与えるものとして、ますますその発展・深化が期待されている。様々な時間・空間スケールの自然災害に対して、測地学の諸分野はいかにアプローチし、連携していくべきか？

世界の測地研究者が東日本大震災の場「東北」に集い、議論する。

講演申込期限を2014年4月11日(金)に延長しました。下記、Websiteより申し込みください。

<http://genah2014.jpn.org>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月24日送信しました)

○講演会等の案内

【東大地震研・研究集会「火山露頭DB構築法の検討」のご案内】

東京大学地震研究所・研究集会「火山噴火履歴解明のための露頭データベース構築法の検討」

日時：2014年2月8日(土)～9日(日)

場所：東京大学地震研究所2号館 第2会議室

2月8日(土)

セッション1 (座長：中田節也)

10:20 奥野 充 (福岡大)・中田節也 (東京大)「露頭情報データベース：研究集会の趣旨説明」

- 10:40 伴 雅雄 (山形大)「火山噴火履歴解明のための露頭データベース構築法: 岩石学的データの場合」
- 11:00 遠田晋次 (東北大)「古地震調査におけるテフラの重要性」
- 11:20 中西利典 (KIGAM)「ボーリングコア高精度解析による活断層の活動履歴の検討」
- 11:40 中村俊夫 (名古屋大)「高精度放射性炭素年代測定のための試料記載の重要性」

(12:00~13:00 昼食)

セッション2 (座長: 鳥井真之)

- 13:00 宝田晋治・Jeol Bandibas (産総研)「次世代型火山災害予測システム及びアジア太平洋地域地震火山ハザード情報システムの構築」
- 14:30 奥村 勝 (福岡大)「地質データベースの構築に向けた環境整備」
- 14:50 高橋伸弥 (福岡大)「地質データベースの構築とその活用方法に関する提案」
- 15:10 鶴田直之 (福岡大)「地質データベースの二次利用の将来展望」

セッション3 (座長: 伴 雅雄)

- 15:30 藤木利之 (福岡大)「南九州、肝属低地の泥炭コア試料と花粉分析」
- 15:50 和田恵治 (北海道教育大)「北海道白滝の黒曜石溶岩の内部構造」
- 16:10 佐藤鋭一 (神戸大)・和田恵治 (北海道教育大)「大雪山、御鉢平カルデラ起源の火砕流堆積物とマグマ供給系について」
- 16:30 吉本充宏 (北海道大)「北海道駒ヶ岳火山周辺域の重要露頭の保存状況」
- 16:50 井上 弦 (九州大)「露頭データベースにおけるテフラと土壌について」
- 17:10 長橋良隆 (福島大)「テフラの初生堆積・再堆積: 火砕流堆積域と湖沼の例」

(18:00~ 懇親会)

2月9日 (日)

セッション4 (座長: 前野 深)

- 9:20 大野希一 (島原半島ジオパーク協議会)「学術情報のアウトリーチ・ツールとしてジオパーク: 島原半島のジオサイトと地域活性化」
- 9:40 石田直人 (新潟大)「微化石用3Dイメージング技術の噴火史研究への転用は可能か?」
- 10:00 任 忠完 (ソウル大)「韓国・鬱陵島火山の陸上と海底コアの対比」
- 10:20 森脇 広 (鹿児島大)「始良カルデラ周辺の沖積低地に挟在するテフラ」

- 10:40 鳥井真之 (熊本大)「フィリピン、イロシンカルデラ内から採取したコア試料」

- 11:00 小林哲夫 (鹿児島大)「露頭から知るカルデラ噴火に関わる地学現象: 前兆と噴火時」

(12:00~13:00 昼食)

セッション5 (座長: 小林哲夫)

- 13:00 宮縁育夫 (熊本大)「テフラ断面から何を読み取るのか?」
- 13:20 長谷川 健 (茨城大)「大規模珪長質噴火の露頭情報」
- 13:40 鈴木桂子 (神戸大)「阿多カルデラ周辺の露頭記載: 特に重要と思われる地質情報」
- 14:00 前野 深 (東京大)「鬼界カルデラ噴火の近傍堆積物の記載」
- 14:30 総合討論 (司会: 奥野 充 16:00 終了予定)

参加費は無料 (事前申込不要)

懇親会 (会費 3000 円) 要事前申込

懇親会申込: 前野 深 (fmaeno@eri.u-tokyo.ac.jp)

その他の問合せ: 奥野 充 (okuno@fukuoka-u.ac.jp)

<http://www.acrifis-chai.fukuoka-u.ac.jp/EHI/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月5日送信しました)

【日本堆積学会山口大会・第1報】

日本堆積学会2014年山口大会(於: 山口大学吉田キャンパス)を2014年3月14日~17日に開催いたします。今大会は海底地すべりに関するシンポジウムや特別講演、巡検の企画があります。

内容についての第1報は下記、学会ホームページをご覧下さい

<http://sediment.jp/04nennkai/2014/annai.html>

日本堆積学会行事委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月5日送信しました)

【熊本大学総合科学技術共同教育センター】

Announcement of Lectures in English by Invited Researcher
Global Joint Education Center for Science and Technology (GJEC) will offer the following intensive course in English.

Dr. James F. Allan of National Science Foundation (USA) will give lectures from February 26 to 27.

=====

Title: Ocean Drilling Science

Lecturer: Dr. James F. Allan (National Science Foundation, USA)

Date and place :

2/26 (Wed) 10 : 20-16 : 00 MOT lecture room, 4F Bldg. of Grad School Sci Tech.
 16 : 10-17 : 40 Room C-420 Seminar room, Bldg. of Faculty of Science
 2/27 (Thu) 10 : 20-17 : 40 MOT lecture room, 4F Bldg. of Grad School Sci Tech.

開催日時：2014年3月6日（木）10：00～17：00
 開催場所：三田 NN ホール & スペース 多目的ホール
 参加費：無料

申込期限：2014年2月24日（月）

詳細は下記をご参照ください。

<http://www.numo.or.jp/topics/2013/14021811.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月19日送信しました）

Lecture content :

- 1) Scientific Ocean Drilling : IODP, and the JOIDES Resolution drills offshore Antarctica (general talk with film)
- 2) NSF and IODP : Lessons learned from a decadal drilling program- how to do and how not to do big international science programs
- 3) The National Science Foundation and recommendations for writing a good proposal
- 4) Scientific Ocean Drilling : How it works
- 5) The Colima Rift, Mexico : a tectonic terrane in the making?
- 6) Fernandina Volcano : How robust is the Galapagos hotspot?
- 7) Cr-spinel in basalt, an overlooked gem

【高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム「サマー・サイエンスキャンプ2014」参加者募集】

開催日：2014年7月22日～8月23日の期間中の2泊3日～5泊6日

対象：高等学校，中等教育学校後期課程（4～6学年）または高等専門学校（1～3学年）

会場：大学，公的研究機関，民間企業等 45機関

定員：会場ごとに6～40名（計724名）

参加費：2000円（食費の一部に充当。自宅と会場間の往復交通費は自己負担）

応募締切：2014年6月13日（金）必着

主催：独立行政法人 科学技術振興機構，会場となる実施機関（45機関）

応募方法：Webより募集要項・参加申込書を入手し，必要事項を記入の上事務局宛送付

<http://www.jst.go.jp/cpse/sciencecamp/camp/>

応募・問い合わせ先：サイエンスキャンプ本部事務局

（公財）日本科学技術振興財団 人財育成部内

TEL：03-3212-2454 FAX：03-3212-0014

E-mail：camp-boshu26@jsf.or.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月16日送信しました）

Seminar :

2/26 (Wed) 16 : 10-17 : 40 Topic (2)
 at Room C-420 Seminar room, Bldg. of Faculty of Science
 2/27 (Thu) 16 : 10-17 : 40 Topic (3)
 at MOT lecture room, 4F Bldg. of Grad School Sci Tech.

2/28, 3/1 (Sat, Sun) Field trip to Sakurajima and Unzen.

詳細・聴講希望の方は熊本大・長谷中にお問い合わせ下さい。

E-mail : hasenaka@sci.kumamoto-u.ac.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月14日送信しました）

【NUMO 技術開発報告会 ―自然現象の確率論的評価手法の適用性―のご案内】

原子力発電環境整備機構（NUMO）では，3月6日に標記のとおり報告会を開催いたします。

火山活動，断層活動，隆起・侵食などの，自然現象の将来10年を超える超長期の不確実性を考慮した評価に対するアプローチの一つとして，確率論的評価手法を紹介いたします。

○連合大会関係

【連合大会投稿開始のお知らせについて】

2014年連合大会投稿

大会委員会からご連絡いたします。

2014年連合大会（4月28日～5月2日横浜）の投稿締切は2月12日（水）12：00までです。すでに早期投稿期間（2月3日（月）24：00まで）は過ぎましたが，引き続き通常投稿にて投稿可能です。火山関連セッションも複数開催されますので，学会員の皆様の積極的な投稿・発表をお願いいたします。

詳しくは，以下の連合大会HPをご覧ください。

http://www.jpgu.org/meeting/submission_t.html

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月4日送信しました）

【連合大会「活動的火山」セッション】
火山学会の皆様

今年の連合大会での「活動的火山」セッションはポスター発表（コアタイムは5月1日18時15分から19時30分まで）だけが割り当てられ、5月1日16時15分から18時までに3分間発表の時間が与えられました。

時間に余裕があること、またセッションを盛り上げるために、3分間発表を希望された方の中から、最近のイベントについて取り扱った伊藤弘志氏・寺田暁彦氏・中田節也氏に、ポスター発表とは別に15分の発表をお願いし、ご承諾を得ることができました。このため、プログラムは下のようになります。

皆様ぜひセッションに参加下さい。

16:15-16:30

伊藤弘志 小笠原諸島、西之島火山における2013年の噴火

16:30-17:00 (3分オーラル発表)

和田さやか 十勝岳及び雌阿寒岳における最近の火山性地殻変動の繰り返し GPS 観測

長山泰淳 2013年の樽前山の火山活動と噴火シナリオへの適用の試み

山本 希 東北地方太平洋沖地震以後の八甲田火山群の活動

佐伯和人 次の伊豆大島噴火における無人観測ロボット活用のための準備活動

福井海世 地殻変動観測から推定される三宅島火山の圧力源について

市原美恵 新燃岳2011年噴火の3日前に発生した奇妙な地震・空振・地殻変動現象

高木朗充 気象レーダーによる2011年新燃岳噴火の噴煙の高さと空振データの関係

早河秀章 阿蘇火山火口近傍の重力変動と降水の重力寄与

宇津木充 2014年阿蘇火山活動活性化に伴う浅部比抵抗の時間変化について

17:00-17:15

寺田暁彦 阿蘇火山中岳第一火口における2012年以降の熱活動の特徴

17:15-17:45 (3分オーラル発表)

久家慶子 2013年8月18日桜島昭和火口噴火にとりなって九州を伝播した長周期地震波

八木原寛 繰り返し海底地震観測による桜島火山周辺のVT地震活動域と上部地殻3次元地震波速度モデルとの比較

筒井智樹 桜島火山における反復地震探査(2013年)

中道治久 2013年桜島人工地震探査の概要と2008年実施探査との比較

山本圭吾 桜島火山および始良カルデラ周辺域の地盤上下変動:2013年10月・11月実施の水準測量結果

風間卓仁 相対重力データに対する陸水擾乱補正の重要性:桜島火山を例に

森田雅明 諏訪之瀬島火山における二酸化硫黄放出率の自動観測と地震観測との比較

熊谷博之 高周波地震波振幅の解析から推定されるタール火山(フィリピン)の浅部S波減衰領域とマグマシステム

山田大志 ロコン火山における爆発地震の初動部分の解析

17:45-18:00

中田節也 インドネシア、シナブン火山の最近の噴火活動

「活動的火山」代表コンピナー 青木陽介

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月4日送信しました)

【2014年春季火山防災委員会開催(4/28 18:15~)】

各位

日本地球惑星科学連合2014年大会期間中に、火山防災委員会のシンポジウムを下記のように開催しますので、ご参集ください。

日本火山学会 火山防災委員会

日本火山学会 火山防災委員会シンポジウム

日時:平成26年4月28日(月)18:15~20:30

場所:パシフィコ横浜 416号室

プログラム

- 1.「アジア太平洋地域地震火山災害図プロジェクトとイタリア、インドネシア、フィリピンにおけるハザード・リスク対策の現状」
宝田晋治(産総研)
- 2.「降灰予報の高度化について」
松森敏幸(気象庁 火山対策官)
- 3.総合討論

「火山防災委員会」は委員会といっても、委員を限定してそれ以外の人々を除外する会ではありません。日本火山学会の会員諸氏には完全にオープンな会議であります。ご遠慮なく、自由に会議に出席し、討論に参加してください。

また、日本火山学会の会員でなくても、自由に会議に

参加できますので、これらの話題に関心のある方にはお知らせください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月22日送信しました)

【日本地球惑星科学連合大会 25 周年記念式典】

連合執行部から以下の案内が来ていますのでお知らせします。

なお、この時間帯にも火山関係の一部のセッションが行われていることを申し添えます。

日本地球惑星科学連合大会 25 周年記念式典
 日 時：平成 26 年 5 月 1 日（木）17：15～18：40
 場 所：パシフィコ横浜会議センター
 1 階メインホール

式次第：

- 25 周年記念式典 司会：副会長 川幡穂高
- 会長挨拶 連合会長 津田敏隆
- 来賓祝辞 日本学術会議 会長 大西 隆様
- 来賓祝辞 海洋研究開発機構 理事長 平 朝彦様
- フェロー表彰式

- ・ 概要説明
- ・ 表彰者発表 (43 名)

閉会の言葉 (副会長 木村 学)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月25日送信しました)

【連合大会・学会受付設置日のお知らせ】

4月28日～5月2日に横浜市西区のパシフィコ横浜・会議センターにおいて開催される日本地球惑星科学連合2014年度大会におきまして、火山学会ブース(パシフィコ横浜・会議センター5階 学協会個別展示エリア No.4)を設置します。

連合大会学会受付設置日：

- 4月28日(月)(10：00～17：00)
- 29日(火)(10：00～17：00)
- 30日(水)(14：00～17：00)
- 5月1日(木)(10：00～17：00)
- 2日(金)(10：00～16：00)

学会入会申込や現金払いによる会費の納入を受けますので、どうぞご利用ください。

なお、大会期間中は、東京・本郷の火山学会事務局はお休みになりますのでご了承願います。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月25日送信しました)

○理事選挙関係

【火山学会理事選挙立候補受け付け(締切 2/28)】

火山学会会員各位 平成 26 年 2 月 18 日
 特定非営利活動法人日本火山学会
 選挙管理委員会委員長 鶴川元雄

特定非営利活動法人 日本火山学会 理事選挙立候補受付について

現在、次期理事選挙の立候補を受け付け中です。2月28日の締め切りまで10日となりましたので、あらためてお知らせいたします。

詳細は火山学会 HP、あるいは下記をご覧ください。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/2014riji-senkyo.pdf>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月18日送信しました)

【火山学会理事選挙立候補受け付け(締切 2/28)】

火山学会会員各位 平成 26 年 2 月 26 日
 特定非営利活動法人日本火山学会
 選挙管理委員会委員長 鶴川元雄

特定非営利活動法人 日本火山学会 理事選挙立候補受付について

現在、次期理事選挙の立候補を受け付け中です。2月28日の締め切りまであと2日となりましたので、あらためてお知らせいたします。

詳細は火山学会 HP、あるいは下記をご覧ください。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/2014riji-senkyo.pdf>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月26日送信しました)

【特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙について】

平成 26 年 3 月 3 日
 会員各位

特定非営利活動法人日本火山学会
 選挙管理委員会委員長 鶴川元雄

特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙規定に基づき、次期理事候補を受け付けましたところ、下記18名の届け出がありました。1月24日付 理事選挙立候補受け付けのお知らせにありますように、次期理事の定員は14名以内です。これに対して立候補者数が定員を超えましたので、投票により理事14名の選出をお願いいたします。

投票用紙と選挙用封筒を別途、郵送いたします。

次期理事選挙立候補者(あいうえお順)

1. 井口正人 京都大学防災研究所
2. 市原美恵 東京大学地震研究所

3. 宇都浩三 産業技術総合研究所
4. 及川 純 東京大学地震研究所
5. 金子克哉 京都大学大学院人間・環境学研究所
6. 北川貞之 気象庁
7. 下司信夫 産業技術総合研究所
8. 篠原宏志 産業技術総合研究所
9. 嶋野岳人 常葉大学大学院環境防災研究科
10. 千葉達朗 アジア航測株式会社
11. 中田節也 東京大学地震研究所
12. 中村洋一 宇都宮大学教育学部
13. 西村太志 東北大学大学院理学研究科
14. 橋本武志 北海道大学大学院理学研究院
15. 藤田英輔 防災科学技術研究所
16. 藤縄明彦 茨城大学理学部
17. 萬年一剛 神奈川県温泉地学研究所
18. 吉本充宏 北海道大学大学院理学研究院

以上 18 名

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 3 月 3 日送信しました)

【特定非営利活動法人 日本火山学会 理事選挙について】

火山学会会員各位

平成 26 年 3 月 24 日

特定非営利活動法人日本火山学会

選挙管理委員会委員長 鶴川元雄

特定非営利活動法人 日本火山学会 理事選挙について

現在、次期理事選挙の投票を受け付け中です。3 月 31 日の締め切りまで

あと 1 週間となりましたので、あらためてお知らせいたします。

詳細は火山学会 HP および下記をご覧ください。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/2014rijisenkyo.pdf>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 3 月 24 日送信しました)

【平成 26 年 特定非営利活動法人日本火山学会 理事選挙結果の報告】

選挙管理委員長 鶴川元雄

平成 26 年特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙は、2014 年 3 月 3 日に公示し、2014 年 3 月 31 日に投票を締め切りました。開票結果を以下のとおり報告いたします。

開票日時：2014 年 4 月 4 日（金）13：30-19：30

場 所：火山学会学会事務所

出席者：選挙管理委員長 鶴川元雄

選挙管理委員 大湊隆雄

立会人 田口理恵

開票結果：

順位	選挙人名簿番号	候補者・氏名	得票数
1	11	中田節也	284
2	1	井口正人	282
3	10	千葉達朗	259
4	17	萬年一剛	252
5	15	藤田英輔	251
6	2	市原美恵	238
7	13	西村太志	237
8	8	篠原宏志	227
9	18	吉本充宏	225
10	7	下司信夫	219
11	6	北川貞之	216
12	3	宇都浩三	209
13	9	嶋野岳人	189
14	14	橋本武志	189

以上、当選

15 (次点)	16	藤縄明彦	187
16	5	金子克哉	183
17	12	中村洋一	162
18	4	及川 純	151
		総投票数	3960

投票者数 359 有効投票者数 359 (内 白票 1)

無効投票者数 0

有効投票総数 3960

以上

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 7 日送信しました)

○「火山」59 巻 1 号 目次

「火山」59 巻 1 号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

=====

・論説「Resistivity Structure of the Showa-Shinzan Dome at Usu Volcano, Hokkaido, Japan」

著者：後藤芳彦・城森 明

昭和新山の内部構造を解明するために比抵抗構造探査を行いました。探査は CSAMT 法を用い、昭和新山

を東西方向に横断する測線上で行いました。

その結果、山頂直下に直径約 400m のデイサイト貫入岩体が存在することが明らかになりました。屋根山の下は、低比抵抗となっており、貫入岩体は存在しないと考えられます。

・解説・紹介「火道流モデルの構築による噴火機構に関する研究」

著者：小園誠史

本論は、日本火山学会研究奨励賞の受賞を機に、大変有難いことに受賞対象の火道流モデルに関する研究を解説・紹介する機会を頂いたものです。年々、火道流モデルには様々な効果が付加され、計算結果は複雑になる一方ですが、そのなかで噴火現象を支配する本場に重要な物理過程は何かを、できるだけ丁寧に調べることに重点を置いたこれまでの研究を紹介します。

・解説・紹介「久野久著『火山及び火山岩』の勧め」

著者：佐藤博明

この度、久野久(1954)『火山及び火山岩』岩波書店、を紹介する機会を与えて頂いて、久野先生は思っていたよりずっと凄い学者だったことを少し理解できたような気がします。私が先生に接したのは最後の2年余りで少し丸くなっておられたようでした。でも、多くの要職を勤めながら最後まで研究一筋だったことを思い出します。

=====
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月24日送信しました)

○火山学会 60 周年事業委員会

【火山学会 60 周年事業のお知らせ】

火山学会員の皆さま

日本火山学会 60 周年事業委員会

日本火山学会では、火山学会の 60 周年(2016 年)に向け、火山学の現状を把握し、今後推進すべき課題と方策の検討を行う企画を立てております。

そのための3つの課題に対して WG を設置し、メンバーを募集致します。

会員の皆様からの積極的な参加を期待しております。WG の活動を通じて出てきたアイデアを既存の枠組みにとらわれず具体化していくことで、今後の火山学の中心的なプロジェクトの創出など、会員の皆様の活動の発展に寄与できると考えております。

★検討課題と WG (事業委員会担当者 ○は WG 長)

---詳細は文末参照

WG1. 火山学の学術的発展 (○奥村 聡・石塚 治・篠原宏志・前野 深)

WG2. 火山学の社会貢献 (○竹内晋吾・鬼澤真也)

WG3. 火山に関わる人材育成 (○長谷川健・中道治久・市原美恵)

★ WG メンバーの仕事

年に数回程度の会合を行う(第一回は7~8月を予定)。

各課題について情報収集と検討を行い、報告書をまとめる。

報告書は、学会誌「火山」の編集委員会と協力し、火山学会員に(或いは、一般の方々にも)広く読んでいただける発表方法を考えて行きます。

★募集期間と応募先

5月31日までに日本火山学会事務局

kazan@khaki.plala.or.jp まで

内容に関する問い合わせ:

全体的なこと:市原美恵(東大・地震研)

ichihara@eri.u-tokyo.ac.jp

各 WG の内容:WG1:奥村 聡(東北大)

sokumura@m.tohoku.ac.jp

WG2:竹内晋吾(電中研)

takeshin@criepi.denken.or.jp

WG3:長谷川健(茨城大)

hasegawt@mx.ibaraki.ac.jp

報告書目次案:

WG1. 火山学研究と研究体制

1-1. 火山学最近 20 年

基礎研究・主な火山活動に伴う研究の進展・分野変遷・周辺分野の動向・国際比較

1-2. 研究体制

大型プロジェクト・噴火予知計画・国際共同研究・研究設備・データベース・学会活動など

WG2. 火山学と社会との関わり

2-1. 火山防災・噴火予知

2-2. ジオパーク

2-3. 学校教育

2-4. その他のアウトリーチ

2-5. 火山学会の社会活動

WG3. 人材育成

3-1. 大学大学院教育

3-2. 人材育成における産学官協力

3-3. 人材育成における国際交流事業

3-4. 火山学専門家の活躍の場

3-5. 学会による人材育成支援

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月24日送信しました)

○「火山」特集号・原稿募集のご案内

日本火山学会員の皆様

火山特集号「火山噴火史解明のための露頭データベース構築の検討」への投稿を、下記の通り募集します。皆様のご投稿をお待ちしています。

投稿の概数を把握したいので、現段階でご投稿を予定されている方は、特集号の編集委員の奥野 充 (okuno@fukuoka-u.ac.jp) まで、仮のタイトルと著者名を6月13日(金)までにお送り下さい。

1. 特集号タイトル

火山噴火史解明のための露頭データベース構築の検討 (Determination on Outcrop Database for Revealing Eruptive History)

2. 言語

日本語または英語

3. 特集号編集委員

奥野 充 (福岡大学), 小林哲夫 (鹿児島大学), 前野深 (東京大学), 宮緑育夫 (熊本大学), 長谷川 健 (茨城大学), 吉本充宏 (富士山科学研究所), 福島大輔 (桜島ミュージアム), 伴 雅雄 (山形大学), 長橋良隆 (福島大学)

4. 投稿締め切り予定日 2014年7月末日

5. 掲載予定 2014年4号及び2015年1号

6. 投稿先

「火山」電子投稿ページ http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/doc/www_submission.html
(火山噴火史解明のための露頭データベース構築の検討特集号と明記のこと)

7. そのほか 「火山」投稿規定に従う。

8. 特集号の趣旨 (概要)

火山噴火史の解明は、火山学の基礎的課題であるが、そればかりでなく将来の噴火予測にも不可欠である。これまでに、火山噴火のカタログとして「Volcanoes of the World (Third edition)」(Siebert et al., 2010) が出版され、我が国でも「日本活火山総覧(第4版)」(気象庁, 2013) や「日本の火山(第3版)」(産業総合研究所, 2013) などがある。また、テフラのカタログとして「新編 火山灰アトラス」(町田・新井, 2003) も出版されている。ただし、これらのカタログでは、個々の地質データを詳しく検証することは難しい。火山噴出物の露頭は、長期間存在しないことが多く、すべての露頭情報が論文に公表されるわけでない。一方で火山噴火史に関連する多くの研究では、露頭やコア試料での産状が重要であり、研究目的や観察・分析精度にあわせて繰り返し検証する必要がある。最近では、印刷技術の進歩により論文にカラーで鮮明な露頭写真が掲載されることも一般的になりつつある。このカラー化の普及によって読者が得られる露頭の情報量は飛躍的に増えたといえる。この動きをさらに進めて、露頭のカラー写真をデータベースとして整備できれば、露頭の再検証がより容易になり、将来の火山地質学的研究に貢献できると考えられる。この特集では、火山地質(露頭)に関連する情報とそのデータベースの構築法について幅広く議論するため、様々な記載例(論説または寄書)やデータベースに関するレビュー(総説)などを期待する。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月16日送信しました)